



手城小だより

福山市立手城小学校
2025年(令和7年)
3月11日(火)

【学校教育目標】 自他を認め合い、主体的に生きる力をもった児童の育成

「ありがとう」6年生に思いを伝えて 一六送会一



3月3日(月)6年生を送る会がありました。1年生から5年生の子供たちが、今までお世話になってきた6年生に感謝の気持ちを表しました。



ポンポンをもって踊った1年生、ダンスを披露した2年生、歌とリコーダーを発表した3年生、学校〇×クイズをした4年生、アイノカタチを歌った5年生が、「一緒に遊んでくれた」「掃除のやり方を教えてくれた」「給食クイズの放送が楽しかった」「登校班で安全に連れて行ってくれた」「いつも頼りになった」など、6年生への感謝の気持ちを言葉にして伝えました。縦割り班ごとに撮った写真とメッセージカードを受け取った6年生からは、リコーダーの演奏を披露してくれました。全員で歌った「旅立ちの日に」では、6年生への思いがこもった温かい歌声が体育館中に響き渡りました。



6年生は、「みんなが一生けん命書いてくれた」という嬉しい気持ちと、「もう一緒に遊べないのか」という寂しい気持ちを感じたと思います。1年生の発表を見て、「わたしも1年生の時は、こうだったのかな」と感じて自分の成長を自覚したことでしょう。下級生にとっても、6年生がいなくなる寂しさを味わうことになり、6年生を送る会は、子供たちの心の耕しという面で、とても意味ある行事になったと思います。



10代のうちに身に付けたい力と時間の使い方



3月4日(火)横山塾の塾長、横山忠義様を講師にお迎えして「次のステージに進むみなさんへ」6年生にお話をさせていただきました。中学校の中間や期末テストの試験範囲表を見せながら、時間をどうやりくりすればいいのか、今、身に付けておきたい5つの力や時間の使い方について具体的に分かりやすく話していただきました。



「勉強は、大人になって活かすためのものです。遠回りだと思うことも必ずどこかで誰かの役に立ちます、忙しい人にとっては、『やりくりの練習』で時間がある人は『チャレンジする時間』です。まずは、一週間、『楽しかったな』と思えることを目指していきましょう。」と語られました。

これから中学生になる6年生にとって、学ぶことについて、時間の使い方について、自分を見つめ考える大切な機会となりました。

- 人生とは選択の連続だということが心に残りました。「疲れた」ではなく、「やりきった」とポジティブに言えるようになりたいです。
- 人生はミスなど様々な経験が積み重なっているのだと思いました。これから色々なことに挑戦し、ミスをして、そのミスを変えていきたいと思いました。
- 何事にも挑戦することが大切で「やってみないと無駄かどうかは分からない」のだから、中学生になったら何事にも挑戦し熱中できることを探そうと思います。
- 時間を有効に使いたいと思いました。今まで無駄だと思ったことは、結局無駄じゃないんだと捉えていきたいです。
- 中学校の宿題と提出物の話を聞いて大変そうだなと思いました。ぼくは計算が苦手な忘れ物も多いので、勉強を頑張って忘れ物も減らしたいと思いました。
- 大人になっていくほど自分の時間が減っていくことが分かりました。ゲームばかりするのではなく、勉強にも力を入れる為に、自分の時間にプラスしようと思いました。
- お話を聞いて、改めて一つ一つの授業や友達、家族に支えてもらっているから今の自分があるのだと思いました。自分の苦手なところは、できる人からその技をコピーして、多くの人と協働することのできる人になりたいです。
- 将来のことについて考える時間でした。僕は忍耐力が足りていないと思ったので、そこを努力していこうと思います。無意味なことではなく、努力したことが全て成果につながると信じて、自分の夢に向けて頑張りたいです。
- 「守破離」という行動を参考に、自分に合った勉強方法を探してみようと思いました。
- ぼくは、今まで失敗や無駄にしたいくないという気持ちが強く、チャレンジすることがとても怖かったです。特にスポーツをすることが怖く、水泳やソフトボール、バレーボールは1年も続きませんでした。しかし、学習塾に行き勉強することは少しも嫌ではありませんでした。これから色々なことをやってみて好きなことをみつきたいです。
- 今まで時間がないことを周りのせいにしていたけど、時間はみんな一緒だから、自分で時間を作ろうと思いました。